

主催：日本ソルフェージュ研究協議会

第2回 教育現場からの提言 ソルフェージュ教育に携わって

—指揮者、管楽器奏者としての視点からの日仏のさまざまなレベルにおいての比較—

フランスのソルフェージュ教育には、まだまだ我々が知らないことがあるようです。以前、パリ音楽院教授の渡辺りか子先生にパリ音楽院のソルフェージュ教育について語って頂きましたが、今回は板倉康明先生に、まだ在学中でありながらもフォルマシオンミュジカルの資格を持っている学生がどの様に活用されているか、その実態について語って頂きます。在学中の学生が他の音楽学校でフォルマシオンミュジカルの教員として働く制度とのことです。日本とは違ったフランスの教育制度を活かした極めて興味深い試みだと思います。単なる講義ではなく、議論の場として行いたいというご希望ですから、皆様の闘争なご質問、ご意見が飛び交う場になるのではないかでしょうか。是非、多くの方々にご参集頂きたいと思います。皆様のご来場を心よりお待ち申し上げております。

日本ソルフェージュ研究協議会会長 渡辺 健二

日 時：2026年1月25日(日) 14:00 開演(13:30 開場)

会 場：東京藝術大学音楽学部5-109 大講義室

対 象：①対面

②オンライン(アーカイブ)…会員限定

配信期間 2026年3月1日(日) 20:00～3月30日(月) 10:00

講 師：板倉 康明

ソルフェージュ教育の本場と謳われているフランスでは近頃パリ近郊の自治体立音楽院でもFM (Formation musicale) の教師不足が問題化している。それを補うためにFMのDEM (Diplôme d'état musical 所持者、能力の高い学生であれば学士を取る前に2年程度の課程修了により取得できる資格)のみを持っている18歳から20歳の学生が、自身も専攻の学習を継続しながらFMの教員として指導する例が珍しくない。日本の制度では考えられないことであり、生徒より年少者が教育をしている。が、さまざまなカテゴリーの音楽院から継続的にオーケストラや合唱団を構成する音楽家が養成され供給され音楽学校としての機能は損なわれていない。この事実が何を示しているのかを取り上げなければならないと考える。彼らはFM教師との経験を人生の過渡期と捉えてしばらく過ごし、そのままオーケストラ等に就職し音楽家として生活していくわけだから。

我が国では教育制度の差異から異なる教育手法が取られているが、その当否も含めて活発な議論の端緒を作りたい。講師による一方通行の講義ではなく、質問、反論等積極的に行なってソルフェージュ教育の根本的目標、合奏 (ensemble) の場としたい。



板倉 康明 ITAKURA Yasuaki

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て東京藝術大学音楽学部卒業。フランス政府給費留学生として渡仏し、パリ市立音楽院、パリ国立高等音楽院を卒業。故アンリエット・ピュイグ=ロジェ氏から深い薰陶を受け、現在の多彩な演奏活動の礎を築いた。2001年より東京シンフォニエッタ音楽監督就任。第18回中島健蔵音楽賞を受賞。1997年度、1999年度、2015年度日本音楽コンクール委員会特別賞を受賞。国立音楽大学客員教授、ボルドー・ヌーヴェルアキテヌ高等音楽舞踊学院教授を歴任。

入場料：無料

(会員以外の方は、当日以下の諸経費負担をお願いいたします)

一般 3,000円、学生 1,000円

問合せ先：日本ソルフェージュ研究協議会事務局

Tel. 090-5566-8567 (留守番電話)

E-mail : ni.sol.ken@gmail.com

<http://www.ni-sol-ken.com/index.html>

会員ログイン用 QR コード



オンライン視聴は以下の会員ログインの URL
もしくは左の QR コードからお入りください。

<http://www.ni-sol-ken.com/member/auth.php>

Homepage

Facebook



東京藝術大学
上野キャンパス
音楽学部

